

## 第1学年 社会科学習指導案

### 1 単元名 「 武士の台頭と鎌倉幕府 」 ～モンゴルの襲来と日本～(東京書籍)

#### 2 単元について

- 本単元は、社会科学習指導要領歴史的分野の内容(3)中世の日本の学習として位置づける。この単元では、武家として初めての政権である鎌倉幕府の成立、南北朝の争乱と室町幕府、東アジアの国際関係、応仁の乱後の社会的な変動などを通して、武家政治の特色を考えさせ、武士が台頭して武家政権が成立し、その支配が次第に全国に広まるとともに、東アジア世界と密接な関わりが見られたことを理解させることをねらいとしている。

源頼朝は、平氏の政治のやり方を教訓として、あくまでも武士として政治を行おうとした。あえて、長い間都のあった京都から離れた鎌倉という地で、朝廷とは距離を置いたやり方と御家人と主従の関係を結ぶ封建制度による支配を行おうとした。ここでは、頼朝による武家政権が東国に生まれ、そこから支配力を広げていった様子を、日本の歴史上初めての幕府と朝廷の関係に注目しながら理解していく。

また、この時代の仏教が教養や修業、お金を必要とした平安仏教と違い、自分の信仰こそが重要であり、教えが簡単で、实际的で、妻帯も許された新しい鎌倉仏教が、当時の人々に抵抗なく受け入れられ、信者を増やしたことも注目に値する。この鎌倉仏教がおこった理由が、それ以前の平安仏教を支えていた貴族階級が衰退したことに起因することも見逃せないところである。

最後に、今回は元寇までを1つの単元に再構成し、二度にわたる元の襲来と日本の対応について理解させたいと考えている。この武家政権が始まった鎌倉時代が、他の時代と比べてどのような違いや特徴をもっているのかについても多面的・多角的に考察し、最後に元寇のところでの討論や意思決定過程を取り入れた授業で、思考力・判断力・表現力を育てたいと考える。

- 本学級の生徒の社会科の県学習状況調査の結果を見ると、歴史的分野が県の正答率を下回る結果となった。観点別では、「思考・判断・表現」が県平均を下回っている。

本学級の生徒は、小学校時に教科に関わらず話し合い学習を多く経験しており、簡単な話し合いを行い、既知の学習内容に基づいた答えや自分なりの簡単な意見を友達に伝えることはできる。しかし、知識に裏付けられた質の高い意見や、資料などの根拠に基づいた意見を構成する力は十分とは言えない。

- 鎌倉時代は、日本の歴史上初めて強大な外敵の脅威に晒された元寇が起こった時代である。当時の幕府の執権である北条時宗の対応や九州を中心とした御家人がいかに外敵と戦い、退けたのかについて暴風雨以外の要因について資料に基づいて考えさせたい。単元の最後に、学習課題「弘安の役後、また元の使者が日本にやってきた。あなたが幕府の執権ならどう対応すべきですか」について、①使者の国書を受け入れて、使節の派遣を始める立場と②使者の国書を拒否し、戦争の準備を始める立場に分かれてメリットとデメリットをそれぞれの立場で考え、自分が執権ならどちらを選ぶかの意思決定を行う。資料などを参考に自分なりの意思決定を行わせ、最後に、「国書を拒否して、元軍を迎え撃つ準備をしたのは正しかったのか」について討論を行う。また、この時代の大まかな時代相もつかませたい。

#### 3 単元の目標

本単元は、鎌倉時代がこれまでの時代とは大きく違う武家政権であり、御恩と奉公による封建制度によって土地や身分が安堵されることを理解することができる。また、元寇のところでは、日本が外敵による本土侵略という最大の危機に迫られながらも、幕府の様々な政策や御家人の奮闘、元軍側の作戦面での問題点などで元軍を退けたことや東アジアとのつながりにも関心をもたせる。討論や意思決定過程を取り入れた授業を行うことで、思考力・判断力・表現力を育てることができる。

#### 4 評価規準

社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象についての 知識・理解
<p>○武士が台頭し武家政権が成立したことや鎌倉時代の武士や民衆の動きに対する関心を高め、意欲的に学習することができている。</p> <p>○モンゴルの襲来、など東アジア世界とのつながりに関心を高め、意欲的に追究している。</p>	<p>武士が台頭し武家政権が成立して、武士の支配が次第に全国に広まり、武家社会が発展していったという時代の流れを、幕府と朝廷の関係、土地制度の変化などから多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。</p> <p>○モンゴルの襲来や日明貿易が日本の政治や社会に与えた影響について、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。</p>	<p>武士が台頭し武家政権が成立したこと、鎌倉時代の武士や民衆の動き、鎌倉文化に関する様々な資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。</p>	<p>武士が台頭し武家政権が成立して、武士の支配が次第に全国に広まり武家政権が発展していったことを理解し、その知識を身に付けている。</p>

#### 5 単元計画(全 7時間 本時6/7 )

過程	主な学習活動	教師の働きかけ (○)	【評価】	時配
第1次	○武士の成長 ・武士が次第に勢力を広げたことを、関東や瀬戸内などで起こった戦乱の様子から理解する。	○武士団では、天皇や貴族の子孫が武士の棟梁となって、家来と主従関係を結んだことを、資料から読み取らせる。	・平氏や源氏が武士の中で有力だった理由を、資料から説明できる。 <b>【技】</b>	1
第2次	○武家政権の成立 ・武家政権の特色を、幕府や朝廷の関係から理解する。	○鎌倉の地形的要因に着目させて、幕府が置かれた理由を考えさせる。	・資料をもとに、頼朝が鎌倉に幕府を開いた理由や承久の乱による幕府や朝廷への影響を説明できる。 <b>【思・技】</b>	1
第3次	○武士と民衆の生活 ・鎌倉時代の武士の生活の様子を様々な資料を通して理解する。	○武士の生活が、貴族とは違って武芸中心の質素な生活だったことを資料から理解させる。	・武士が常に戦に備えていたことを、資料の武家の館の様子から説明できる。 <b>【技】</b>	1
第4次	○鎌倉時代の文化と宗教 ・鎌倉時代の建築物・彫刻・文学作品などを調べ、鎌倉文化の特色を理解する。 ・仏教の特色を理解し、広まった理由を考える。	○鎌倉時代の文化が、武士の台頭の影響を受けて力強く・写実的であることを理解する。また、鎌倉仏教が、誰でも実行しやすい方法で信仰できたので、現在でも広く信仰されていることを理解させる。	・この時代の文化が、力強く、写実的なのは、武士が台頭してきたことに関係が深いことを理解できる。 <b>【関・知】</b>	1
	○モンゴルの襲来と日本 ・ユーラシア大陸での動き、及び二度にわたるモンゴルの襲来と日本の対応を考える。	○二度の元寇で、元軍を退けた理由が暴風雨以外にもあることを映像や資料から考えさせる。	・資料を基に、暴風雨以外で日本が元軍を退けた理由を2点以上書くことができる。 <b>【技】</b>	1

第5次	<p>○元寇後の日本と元の動きを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・メリット・デメリットを踏まえて、意思決定Ⅰを行う。</li> </ul> <p>・次時は、「国書を拒否して元軍を迎え討つ準備を始めたのは正しかったのか」について討論をすることを知らせる。</p>	<p>○「弘安の役後、また元の使節が日本にやって来た。あなたが幕府の執権ならどう対応すべきですか」について、①使者の国書を受け入れて、使節の派遣を行う立場と②使節の国書を拒否して、元軍を迎え討つ準備をする立場に分けてメリットとデメリットを考え、最終的に自分が執権ならどちらを選ぶのかという意思決定を行う。</p>	<p>・日元両軍が大きな被害を出した弘安の役後、再びやって来た元の使節に対して、幕府はどのような対応をすべきなのかについて意思を決定し、他の意見も参考に最終的に自分の意思を決定することができる。</p> <p style="text-align: right;">【関・思】</p>	1本時
	<p><b>論題 鎌倉幕府が、元の皇帝の国書を拒否して、元軍を迎え討つ準備をしたのは正しかったのか？</b></p>			
	<p>○討論</p> <p>※執権（幕府）が実際行なった「国書を拒否して使者を処刑し、迎え撃つ準備をしたのは正しかったのか」について討論を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・意思決定Ⅱを行う。</li> </ul>	<p>○自分が幕府の執権の立場で、既習内容や資料、友達の意見などを基に、幕府の対応が正しかったのかについて考えさせ、最終的な自分の意思を決定させる。</p>	<p>・討論に参加し、自分の最終意見（意思決定Ⅱ）を論述できる。</p> <p style="text-align: right;">【関・思】</p>	1

## 6 本時の目標

- 「弘安の役後、また元の使節が日本にやって来た。あなたが幕府の執権ならどう対応すべきですか。」について、①使節の国書を受け入れて、使節の派遣を始める立場と②使節の国書を拒否して戦争の準備をする立場に分かれてメリットとデメリットを考えることができる。
- 自分が幕府の執権なら、どう対応すべきかについて意思を決定し、理由も書ける。

## 7 展開(全7時間 6/7時間)

学 習 活 動	教師の働きかけ (○) と【評価】
1 学習のめあてを確認する。	○元寇の続きの学習を確認する。
<p>めあて 二度にわたる元寇のあとの、日本と元の動きを考えよう。</p>	
2 これまでの元寇（文永の役）の様子を、ビデオを見て確認する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・元軍は、てつほう（火器）を使っている。</li> <li>・元軍は集団戦法で戦っている。</li> <li>・日本の武者は、一騎打ちではなく、集団でも戦っている。</li> <li>・激しい戦いだった。</li> </ul>	○スクリーンに映し出された映像などを見て、戦いの特色を確認させる。  ○元寇以降の日本と元の動きについて確認させる。
<p><b>論題 弘安の役の後、再び、元の使節が日本にやってきた。あなたが執権ならどう対応しますか？</b></p>	
<p><b>社会的な問題(研究や論争となる事件)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3度目の元の使節がやって来たこと。</li> </ul>	
3 「弘安の役の後、再び、元の使節が日本に	○立場は、幕府の執権として考え、①国書を受け入

<p>やってきた。あなたが幕府の執権なら、どう対応しますか」について、2つの対応のメリット・デメリットを考える。その後、全体で発表して意見を整理する。</p> <p>4 ワークシートのメリット・デメリットの表や資料から、どう対応するかを決定する。 【意思決定 I】</p> <p>5 班での話し合いやこれまでの資料などから最終的な意思決定を行う。</p> <p>6 出た意見の人数を調べ、実際の答えを発表し、次時の興味を引き出す。</p> <p>7 次時の予告をする。</p>	<p>れて使節を元にする、②国書を拒否し、元軍を迎え討つ準備をする2点のメリットとデメリットを書かせ、その後発表させて整理し、思考の共有を図る。</p> <p>○個人で考えさせ、理由も自分なりの表現でよいので資料等を用いて書かせる。</p> <p>○班の人の意見を参考にして、最終的な自分の意思を決定する。</p> <p>○実際は、国書を拒否して使者を全員処刑し、戦争の準備が継続することになったことを告げる。</p> <p>○次時は、国書を拒否して元軍を迎え討つ準備を始めたのは正しかったのかについて討論をすることを知らせる。</p>
--	--

【予想されるメリット・デメリットの例】

執権（幕府）の対応	メリット（良い点）	デメリット（良くない点）
<p>●国書を受け入れて、使節を元に派遣する。 (交流を始める)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これ以上、御家人が苦しまないですむ。</li> <li>・御家人が死なないですむ。</li> <li>・幕府の財政も苦しくならない。</li> <li>・九州の御家人の警備（異国警固番役）の負担が減る。</li> <li>・交流が始まれば貿易によって、こちらにも利益が生まれる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまで作ってきた石塁が無駄になる。</li> <li>・大量の南宋の移住者たちを受け入れなければならなくなる恐れがある。</li> <li>・あくまでも元が親で、日本が子という上下関係で交流が始まる。</li> </ul>
<p>●使者の国書を拒否して、元軍を迎え討つ準備をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの日本（幕府）の外交政策（外国には従わない）が揺るがないことを内外に示せる。</li> <li>・南宋からの大量の移住者たちを受け入れなくてすむ。</li> <li>・侵略をしてきた国と交流しないですむ。</li> <li>・命をかけて戦った御家人が報われる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次は、元に敗れるかもしれない。</li> <li>・負けたら、壱岐や対馬のように多くの住民まで殺される。</li> <li>・また石塁を延長して作り続けなくてはならない。</li> <li>・九州の守りの兵役（異国警固番役）を続けなくてはならないので御家人の負担が増える。</li> </ul>

## 8 本時の評価

単元の 評価規準	武士が台頭し武家政権が成立して、武士の支配が次第に全国に広まり、武家社会が発展していったという時代の流れを、幕府と朝廷の関係，土地制度の変化などから多面的・多角的に考察することができている。		
本時の 判定基準	弘安の役の後，再び，元の使者が国書を持って日本に来た。幕府（日本）はどのような対応をすべきかについて既習の知識や資料等を生かして考え，理由も書くことができる。また，班で話し合うことによって最終的な自分の意見を書くことができる。 (社会的な思考・判断・表現)		
本時の 判定基準 (判断するめやす)	「十分満足できる」状況(A)	「おおむね満足できる」状況(B)	「努力を要する」状況(C)
	元の使者への対応について，既習の知識や資料などの根拠をもとに意思決定し，記述できる。また，話し合いに積極的に参加して意見を発表している。	元の使者への対応について，自分なりの記述ができる。また，話し合いに参加し，意見を発表している。	(B)に達していない生徒
→「努力を要する」状況と判断した生徒に対する支援策		→意思決定は，根拠となる資料を用いて記述することが大切であることを伝える。	→元の国書への対応について，さらにヒントを与え，記述を促す。
評価方法	ワークシートの記述内容，発表内容，自己評価表		